



ROTARY CLUB OF

NARA - WEST

DISTRICT WEEKLY BULLETIN
2650 No. 2523

2024. 10. 10

創立 1969年(昭和44年)12月13日
例会日 毎週木曜日18:00より
事務所 〒630-8001 奈良市法華寺町254番地
例会場 奈良ロイヤルホテル内
TEL 0742-34-1131 FAX 0742-30-2000

2024~2025年度
国際ロータリーのテーマ

2024~2025年度
地区のスローガン



持続可能なロータリーに！ 共に学び、共に行動
Make Rotary Sustainable! Learn together Act together



霊山寺 ピース
(写真提供: 東山理事)

国際ロータリー会長
ステファニーA.アーチック

RI第2650地区ガバナー
中本 勝

会長 佐川 寛一	副会長 安井 清悟	会長エレクト 杉村 仁	幹事 木村 和弘	会計 松中 隆
会場監督 岡崎 義幸	理事 寺田 信弘	理事 東山 光秀	理事 井上 直治	理事 杉村 仁
理事 川崎 祥記	会報委員長 東山 光秀			

今月は 経済と地域社会の発展・米山 月間です

第11回(2523回)例会プログラム令和6年10月10日(木)

1. 開会宣言 点鐘
2. ソング 「君が代」「奉仕の理想」
3. 来訪者紹介
4. 出席報告
5. 会長の時間
6. ニコニコ報告
7. 委員会報告・幹事報告
8. 第2回クラブフォーラム
「55周年記念事業について②」
9. 閉会宣言 点鐘

第10回(2522回) 例会報告 2024. 9. 19

奈良北部6ロータリークラブ合同例会 奈良ホテルにて

ソング
「四つのテスト」

出席報告

	会員数	出席計算 免除会員数	出席会員数	欠席者数	出席率
通算 2522 回	23	1/2	19/21	2	90.9%
通算2519回修正	23	2/2	18/21	3	87.0%

奈良北部6RC合同例会





皆さんこんばんは。奈良ロータリークラブの会員の皆さん、お久しぶりです。大和郡山ロータリークラブの皆さんは今年度初めてお目にかかります。こんばんは。他の4ロータリークラブの皆さんへは一応公式訪問を終えさせていただきました。今日は年に1回の6ロータリーの合同例会ということで、楽しんでいただけたらと思います。奈良ロータリーの皆さんには、中本がたまに来て好きなこと言って帰ると思われてはいけませんので、私が日々どれくらい大変な思いをしてロータリー活動をやっているかということをお話させていただきます。今朝は早く起き、JR平城山駅から六地蔵駅へ行き、そこから地下鉄東西線に乗って京都市役所前駅で下車し、ホテルオークラ京都で京都洛北ロータリークラブと京都北東ロータリークラブの合同例会に出席しました。会長以下役員懇談会を3時に終え、その後、前ガバナー並びに前地区幹事長との協議会を経て、5時に奈良に帰ってまいりました。事務所でクタクタになっておりましたが、6時のこの会に出なければならぬということで、5時半ちょっと前に出て、タクシーを待っておりましたが、タクシーが一向に来ないということで、万が一、遅れたらえらいことになると思い、歩いて参りました。暑くて暑くて無茶苦茶で来るなり挨拶せよということでございます。もう挨拶する元気がございませんので、これにてご勘弁いただき、中本もそれなりに頑張ってると思っていただきましたらありがたいと思います。今日は本当によろしくお願いたします。

ニコニコ報告

佐川寛一会長

本日は、6クラブ合同例会盛り上がる事を祈ります。まだまだ暑い日が続きますが、会員の皆様、お身体御自愛下さい。

安井清悟P会長

本日の合同例会開催にあたり6クラブの会長幹事様の御努力に感謝します。楽しみにしています。

下村由加里会員、東山光秀会員、松中隆会員、小松玲子会員、木村和弘会員、加藤又拓会員、岡崎義幸会員、丸山佳映会員

本日は6クラブ合同例会を奈良ホテルにて開催していただき、楽しみにしています。



皆様こんばんは。本日は奈良北部6ロータリークラブ合同例会に全員で209名という大勢の会員の方にご出席をいただきまして、誠にありがとうございます。また琵琶湖八幡ロータリークラブの皆様、本日はようこそお越しいただきました。僭越ではございますが、時間の関係上6クラブを代表いたしまして、私からご挨拶とご説明をさせていただきます。まずこの6クラブについてですが、「鷗尾の会」という会長幹事会がございまして、そこは会員の皆様が交流する場ではありませんので、中本ガバナー年度にぜひ交流ができないかということで合同例会を提案させていただきましたところ、皆様快くお引き受けくださいました。皆様とお話をしているうちに、単に例会をするのではなく、6クラブのスケールメリットを活かした事業ができないかということになり、6クラブで協議を重ねまして、合同で防災ネットワークを作って、自助や公助に繋げていこうと話が進みました。まさに南海トラフ地震をひかえて、最近でも度重なる災害が日本あるいは世界各地で起こっています。災害が少ないという奈良も例外ではないと思っています。今回この6クラブが手を取り合い、情報共有や連携のためのネットワークを作りたいと思っています。このネットワークが誰のためのもなのか、あるいは予防と被災後の動きは違うのではないかなど、様々な意見が出ましたが、6クラブ会長・幹事で何度も協議を重ねてまとめました。具体的なアクションプランを考えて、今できること、あるいは被災時にできることなどを整理し、できることから進めていこうということです。具体的なアクションプランとして、勉強会の実施、備蓄品の整備、災害対策マニュアルの作成、防災マップの作成、安否確認方法の確立、防災関連人材の発掘が挙げられております。例えば備蓄品の整備一つにしても、1クラブでやろうという掛け声があってもなかなか進まなかったりしますが、6クラブで取り決めることで、後押しになると思っています。その中で今年度、二つのことをやっていこうと思っています。一つは防災マップの作成、もう一つが安否確認方法の確立です。これを各クラブで取り組む予定です。防災マップについては自治体も出していますが、それとは

違い、例えば自分のクラブにどんな業種の人がいる
いうところにいるとか、あそこには防災士がいる、う
ちはこんな病院の先生がいるなど、それぞれのクラブ
の財産といいますか、それらをマップに落とし込んで
みようということです。安否確認方法についてはSN
S等を活用して、例えば早くできたクラブがあればで
きないクラブが参考にするといった連携を図ってい
けるのではないかと考えています。まず一歩進めるこ
とで防災意識が高まるとともに、いざという時に互い
のクラブが助け合う形を作る、それが地域にも広が
ればいいのではないかと考えて進めていきたいと
考えています。(奈良RC 朝廣佳子会長)



6クラブ調印式

卓話

「南海トラフ地震臨時情報で明らかになった防災・減災の現在地」

関西大学社会安全学部 奥村 与志弘 教授



1. 挨拶と自己紹介

皆さん、こんにちは。関西大学社会安全学部の奥村と申します。よろしくお願ひします。私の職場はJR高槻駅前のキャンパスにご
ざいます。今日はその高槻から参りました。ご紹介いただきましたよ
うに、私は8年前まで京都大学で教員をしておりました。専門は土
木工学で、京都大学では工学部地球工学科という名前で研究を行
っています。私はそこで学生時代を過ごし、そして、卒業後には教
員としてもお世話になりました。京都大学の土木工学分野の卒業
生の多くは、国土交通省、経済産業省などの政府機関、ゼネコン
や土木コンサルといった民間企業など

で活躍しています。国土交通大臣など政治家として活躍された方もおられます。このように、土木分野において中核的な役割を果たす人材を数多く輩出してきたところであります。私自身はそのような方々のような能力はございませんが、その卒業生の一人であり、助教として5年間教員までさせていただく機会に恵まれました。しかし、30代半ばになってきた頃、自分自身の強みや弱みがある程度分かるようになってきて、京都大学を離れることを決断しました。40歳になるまであと3年というタイミングで、2017年4月に関西大学へ異動したのです。関西大学にも土木工学分野の学部がございますが、私が異動したのはその学部ではなく、社会安全学部でした。社会安全学部は、災害、事故、感染症など、さまざまな危機事象を対象に、自然科学、社会科学などのあらゆるアプローチから研究・教育を行っています。当時はこれから先、自分がどのような形で社会の役に立てるか、貢献していきたいのか、毎日そのようなことばかり考えていました。本日、皆さんの前でお話しさせていただくことも、私が京都大学を辞めて関西大学に移る決意をした理由の一つに繋がっています。

2. 無常にして容赦のない近年の災害

さて、今、日本は、南海トラフ巨大地震をはじめ、さまざまな災害に見舞われる可能性が高まっています。2018年の台風21号のことを覚えておられるでしょうか。非常に風が強く、高波によって関西国際空港が水浸しになったり、風にあおられた船舶が空港への連絡橋と衝突して不通になったりしました。観測記録を更新した高潮による潮位上昇もさまざま、淀川の河口付近の水位は堤防の限界にまで達していました。梅田も水浸し寸前というところまで来ていたのです。

奈良は比較的災害が少なく、安全な町に住んでいると感じておられる方もいらっしゃるかもしれません。しかし、それは「これから先も災害が起こらない」ことを意味しているわけではありません。災害は、最近発生した場所よりも、長く発生していない場所の方が起こる可能性が高いとも言えるからです。その意味においては、私はむしろ関西では奈良が心配です。どうかお気をつけいただきたいと思ひます。もちろん、奈良で災害が起きないことを心から願っています。しかし、災害は無常にして容赦なく、最近も信じられない出来事が相次いでおります。本年1月1日に能登半島で発生した地震は、穏やかであった新春のひとつときを、一瞬にして悲劇の被災地へと変貌させました。また、8月8日に宮崎県日向灘で発生したマグニチュード7.1の地震では、初めて南海トラフ地震臨時情報が発表されましたが、これもお盆の静寂を一転させ、人々に大きな不安と混乱をもたらす日々を引き起こしました。

3. 防災の現状と課題

他方で、国土交通省が進めてきた社会基盤の整備や、災害発生後の早期復旧を可能にするさまざまな取り組みによって、日本はこれまでにないほど災害に強い社会になっています。半世紀前と比べますと、年間の自然災害による犠牲者の数は7割も減少しています(阪神・淡路大震災と東日本大震災を除いた数値です)。交通事故による犠牲者は

8割減ですので、これと同じくらいの成果が現れているのです。

しかし、ここ10年ほどは自然災害による犠牲者数が再び増加傾向にあり、これまでと同じアプローチではこれ以上の効果は期待できないだろうと考えています。対策効果が頭打ちし、限界点に達しつつあると言えます。すでに非常に高い防災水準ではありますが、誰も現状維持で良いとは考えていません。現状を打破し、防災を前進させるために、私が注目しているのはこれまで防災との関わりが薄かった分野の方々の方々の力なのです。防災とは関係ないと思ってこられた方々にも、是非、私たち社会の防災減災の取り組みに積極的に参加していただきたいのです。そう考えるようになったからこそ、多くの企業経営者を輩出し、さまざまな業界で活躍する人材を輩出してきた関西大学で教員をしようと決意し講演活動にも積極的に取り組むようになったのです。

4. 南海トラフ巨大地震と奈良県

自己紹介が少し長くなりました。さて、今日の講演のタイトルは「南海トラフ地震臨時情報で明らかになった防災・減災の現在地」とさせていただきます。臨時情報の話をする前に、南海トラフ巨大地震について少し説明をさせて下さい。

南海トラフ巨大地震が発生すると、西日本を中心に32万3,000人の死者が発生すると想定されています。そのうち23万人は津波による犠牲です。奈良には津波の被害はありませんが、強い揺れによって最大1,700人の死者がでると想定されています。決して小さな被害ではありません。能登半島地震をはるかに超える規模の死者数です。県内の広い範囲を震度6強の強い揺れが襲います。震度6弱が想定されているエリアでも油断はできません。2018年の大阪府北部地震では、最大震度6弱の揺れによって、高槻など北摂地域で6人が亡くなりました。ブロック塀の倒壊や家具の転倒が原因です。

政府は2030年までに耐震性の低い建物をゼロにすることを目指し、耐震補強や建て替えを促していますが、奈良には歴史的建造物も多く、他の地域と同じようには耐震化が進まない可能性もあります。それでも、大きな揺れによる犠牲者をいかに減らすかを考えなければなりません。また、建物が耐震化されても、ブロック塀の倒壊や家具の転倒が懸念されます。書棚のような重いものが倒れた場合、命が失われることもあります。大阪府北部地震で亡くなられた6人のうち3人は書棚の下敷きや書籍の下敷きでした。建物がしっかりしていても、百科事典のような重い書籍の下敷きになるなど、思わぬ形で命を落とすことがないように備えていただきたいと思います。

5. 奈良の役割

奈良県の皆さんには、今後10年かけて南海トラフ巨大地震で一人の犠牲者も出さないようにしていただきたいのですが、実は、それと並行してお願いしたいことがあるのです。和歌山、三重、大阪は揺れによる被害に加え、津波によって甚大な被害が出ると想定されています。それぞれ8万人、2万5千人、5千5百人です。大阪府は独自の想定では死者は13万人に達するとしています。もし、想定のような被害が発生したならば、関西圏において奈良が最後の砦になります。奈良が力を尽くしてくれないと、関西全体が立ち直れなくなる可能性があるのです。

現在、全国から能登の被災地に支援が入っています。南海トラフ巨大地震が発生した場合には、奈良からすぐに大阪、和歌山、三重に官民あげて支援に入りたいです。そのために特に重要なことは、皆さんの社員や職員が被災しないことです。もし社員や職員が地震で犠牲になれば、会社や団体として動けなくなったり、対応に遅れが生じてしまいます。皆さんの会社や団体には、防災対策が進んでいない社員やそのご家族はおられませんか。こういったことに取り組むことは、非常に大切なことなのですが、実はなかなか進んでいません。

6. 社員の命を守るという視点から進める防災

行政はこれまで防災への呼びかけを繰り返してきましたが、私は、所属する会社からの呼びかけの方が社員の耳に届きやすいと考えています。2年前に奈良で同じような話をしたとき、私の話を聞いてすぐに社員に防災グッズを配ったり、会社としてできることを実行して下さったというお話をお聞きしました。社員の命を守ることは、災害が起こった際に会社が迅速に対応できる準備にもなりますし、また会社が社員をここまで考えてくれていると社員が感じることで、良好な関係を築くことにもつながります。しかし、このような取り組みはまだ十分に進んでいないのが現状です。景気も少しずつ上向ってきています。こういった取り組みを福利厚生の一環として進めてみませんか。現在、政府の委員会の中で南海トラフ巨大地震の被害想定の見直し作業が進められています。これまでの10年間でどこまで対策が進展し、これからの10年間で何を指すのかが、今まさに議論されています。私もこの議論に委員として関わっております。そして、私は、企業として、会社として社員の命をどこまで守れるかという視点から防災を進めることが、次の10年の大きな課題になると考えています。また、これまで防災と関わりが薄かった業界の知恵と技術による、これまでになかった防災のアプローチが、これからの防災の大きな躍進の原動力になると考えています。同時に、そういった業界にイノベーションや新しい事業を生み出し、成長を促す力にもなると考えています。某放送局もこの取り組みに注目してくれており、もし、実際に何か動きがあったら、特集番組を作りたいと言っていたいております。奈良のRCの関係者の皆さん、災害による犠牲を防ぐための取り組みを進めてみませんか。今年は阪神・淡路大震災から30年の節目でもあり、いろいろな放送局や新聞社から特集番組や特集記事の相談が来ています。私は、この取り組みが日本の停滞している防災を変えるきっかけになると信じています。現在、私は関西大学の社会安全学部で「総合防災・減災」という形で、さまざまな業界の方々にアプローチしやすい立場です。土木業界とも引き続きいいお付き合いをさせていただきながら、自動車業界や食品業界、不動産業界などさまざまな関係者と協力して、この難局を乗り越えていきたいと考えています。

7. 南海トラフ地震臨時情報とは

さて、南海トラフ地震臨時情報に話を戻しましょう。南海トラフ巨大地震は、フィリピン海プレートとユーラシアプレート

の境界部分が大きくずれることで発生する大規模地震です。歴史的に見ても、90～150年の周期で繰り返し発生してきました。このような大地震が発生する可能性が高まっている今、何か一つでも有利にこの災害と戦う手段はないか、という議論の中で「臨時情報」が導入されました。今から5年前の2019年5月31日に運用が開始されました。

先月発表された「臨時情報(巨大地震注意)」は、想定震源域およびその周辺でマグニチュード7級の地震が発生した場合に、南海トラフ巨大地震への警戒体制を一時的に強化するためのものです。過去の地震の発生傾向に基づく判断です。ただし、実際にMw7級地震のあと、7日以内にMw8クラス以上の大規模地震が発生するのは数百回に1回程度とされています。今回の日向灘の地震が、その数百回に1回のMw7級の地震かもしれないということで、お盆の時期に1週間の警戒が行われました。結果的には、今回は、南海トラフ地震は発生しませんでした。次に発生するMw7級の地震は、数百回に1回の確率で大地震が連動して発生するタイプの地震かもしれません。しかしながら、実際には不意打ちで発生する可能性の方が高いのです。それでも、この臨時情報をうまく活用できるようなシナリオで地震が発生してくれば、多くの命を救うことができると期待されています。

もし、マグニチュード8級の地震が想定震源域で発生すれば、「臨時情報(巨大地震警戒)」が発表されます。この場合は、M8級の地震が発生した時点で数千人規模の犠牲が出ているでしょう。そのような状況の中での警戒体制の強化なので、先月の出来事とはまったく状況が違ふと思います。例えば、東海地方で壊滅的な被害が出ているような状況の中での発表になるのです。

8. はじめての臨時情報で起きたこと

先月8日には宮崎県日向灘でマグニチュード7.1の地震が発生し、初めて南海トラフ地震臨時情報が発表されました。お盆の穏やかで楽しい時間が大きな不安と混乱の日々になってしまいました。

和歌山県白浜町では、海水浴場を閉鎖するなどしたために、ホテルや旅館など観光産業が大打撃を受けました。約5億円もの経済的損失があったと報道されています。この結果を皆さんはどのように受け止めておられるでしょうか。地元経済のことよりも観光客の安全を優先し、海水浴場の閉鎖を決断されました。この決断は新しい町長のリーダーシップの下でなされたもので、観光客の安全を守るための大きな犠牲を払った結果です。

大きな経済損失を出してしまい、海水浴場を閉鎖したことを後悔されているかもしれません。海水浴場を閉鎖すべきではなかったという意見もあるかもしれません。しかし、白浜町の対応は命を守るための模範的な判断だったのではないのでしょうか。私たちはこうした価値観を称賛し、白浜を応援すべきです。皆さん、白浜に美味しいものを食べに行きませんか。観光客の安全を優先するという価値観を守らなければなりません。

補償問題も複雑です。政府は、社会経済活動を継続しながら警戒するようと呼びかけていました。つまり、海水浴場の閉鎖は求めていませんでした。そのため、白浜町のように自主的に閉鎖したことによる損失補償は難しいと考えられます。白浜町は、臨時情報が解除される前から観光客の安全確保の準備を進めていました。突然南海トラフ巨大地震が発生しても観光客が安全に逃げられるように準備をされていました。準備が整ったということで、臨時情報が解除される前に海水浴場をオープンしました。観光客の命を守るための準備ができたからこそ、このような判断になったものと考えられます。臨時情報が発表されている中で南海トラフ地震が発生する可能性は低い、そのことを踏まえれば、この白浜で実施されたような、「突然に備える取り組み」を進めることが非常に大切です。こうした取り組みが各地で進められると、次に臨時情報が発表された時には、より平時に近い体制のままでも済む社会になっていきます。補償問題もそのことを考慮した判断が求められると思います。

高知県の「よさこい祭り」は予定通り実施されました。たまたま先月高知県の安芸市で講演があり、市長さんや職員さんから色々話を聞くことができました。地元のIT企業が開発したLINEを活用したシステムを通じ、観光客はスマホの自身の位置情報に基づいて避難場所を確認できるようになっていたそうです。地図アプリとも連動していて、そこへのルートも表示されます。イベントを楽しんでいる最中に南海トラフ地震が発生したとしても、観光客はどこにいてもLINEを使って安全なところに逃げられるという仕組みが整えられていたのです。特別なアプリケーションを入れる必要はありません。元々準備されていたこの技術を使用するように観光客に呼びかけることで、臨時情報が出てもイベントを予定通り開催する決断を下すことができたと言えます。

9. いま私たちが進むべき道

ここまでの話を少しまとめます。はじめての臨時情報の発表ということでいろいろな混乱がありました。世間には「この情報を今後も活用していくべきだ」、「もうやめるべきだ」というさまざまな声が上がっています。批判の声も少なくありません。私は、先週、臨時情報の運用について検証する政府の委員会に参加してきました。今後、私たちはこの臨時情報をうまく活用できるようになれるかが試されています。

一方で、臨時情報が発表されている中で南海トラフ地震が発生する可能性は低いです。過去を見たら突然起こっている方が多いです。しかし、使えるものは全部使いたいとは思いませんか。そうしなければ、何十万人という犠牲が出てしまいます。この情報をうまく利用できるように、みんなで知恵を出し合わねばなりません。

今回、臨時情報が発表されている中で予定通り大規模イベントが開催されたケースにおいては、地元のIT企業の知恵と技術が貢献していました。次また、いろいろな行事が開催されている中で臨時情報が出るかもしれません。あるいは、突然南海トラフ地震が発生するかもしれません。いざというときに備えて現状の防災を前に進めるために、何が課題になっているのかを是非皆さんにも知っていただきたいと思います。皆さんの力で解決できる課題があれば、ボランティアでなくていいんです。ビジネスとして是非取り組んでいただきたいと考えています。

先週、能登の被災地を訪問しました。高齢化が進む中で一体何が起きたのかを、ぜひ皆さん自身の目で確認していただ

卓話(続き)

きたいと思います。現地を見ていただくことで、奈良におけるご自身の会社や組織、仕事において、今何が求められているのか、新たなビジネスや活動のヒントがきっと得られると思います。被災地でボランティア活動することだけが求められているわけではありません。将来の災害に備え、能登との向き合い方を考えることが重要です。皆さんの今後の活動にとって大きなプラスとなるとと思いますので、ぜひ足を運んでいただければと思います。お手元の資料に付録として、能登半島地震についても色々書かせていただいております。私は災害関連死の研究にも取り組んでいます。能登半島地震では、ニュースなどでコメントや解説をするなど、研究者としてできる限りのことをやってきたつもりですが、振り返ってみると、まったく役に立てなかったと感じています。1月初旬に今回の地震では災害関連死が百人を超える可能性があり、なんとかそのような事態を回避しなければならないと呼びかけましたが、結果としてすでに百人を超える災害関連死が報告されています。災害が発生してから何かをしようとしても遅いのです。どのように準備するかが重要です。本日の講演をきっかけに、皆さんが何らかのアクションを起こされると思います。そこでこそ、私の研究が役立つと考えていますので、ぜひご活用いただければと思います。本日はどうもありがとうございました。

懇親会

中野重宏バストガバナー乾杯御発声



北河原公敬バストガバナー中締め御挨拶

本日は、奈良北部6ロータリークラブ合同例会が盛大に開催されましたこと、誠におめでとうございます。また、関西大学教授の奥村与志弘先生には、防災の大変貴重なご講演をいただき感謝申し上げます。

さて、個人的な話で恐縮ですが、東日本大震災の際に、私も何度も被災地に足を運びました。私の職業柄、他の方々と同じような形で奉仕活動はできませんでしたが、被災された方々のために、例えば、亡くなられた方のご冥福を祈ったり、被災者の心のケアに携わることができました。

被災地に行くと、もちろん物理的な復興が重要であることは言うまでもありませんが、「心の復興」が非常に大切だということを強く感じました。被災された方々の精神的な苦勞は計り知れないものであり、それを目の当たりにして痛感しました。

ご存知のように、大川小学校のように子供たちや先生方が犠牲になった場所もあります。何度も足を運びましたが、特に印象に残っているのは、子供を亡くしたお母さんが、重機を操作するための免許を取得し、行方不明のお子さんを懸命に探し続けていた姿です。その熱意に驚かされました。後日伺った際には、時間が経過したこともあり、現実を受け入れざるを得なかったと、そのお母さんはおっしゃっていました。本当に、災害が私たちに精神的にも肉体的にも非常な苦勞をもたらすのだと、改めて感じました。

本日は北部のクラブ合同例会とのことで、各クラブにおいても災害に対する対策を考えておられるかもしれません。先ほども話に出たように、クラブ間の連携やネットワークをさらに強固にしていくことが重要だと感じています。これをもって私の挨拶を終わらせていただきます。本日はありがとうございました。

第12回 (通算2524回)例会予告
例会日 令和6年10月25日(金)

家族親睦会

奈良ロイヤルホテル 扇滝にて

◎10月17日は休会です

(担当:東山・オフォス)